黒髪山大智院「檀家心得」

第1条 檀家心得について

この「檀家心得」は、佐世保市戸尾町 9-8 に所在地を有する宗教法人黒髪山大智院(以下、「黒髪山」という。)が定める、黒髪山大智院「檀家規約」第 18 条(以下「檀家規約」という。)に定める所によって、黒髪山を菩提寺とする檀家、その檀家一家庭の代表たる施主、及びその家族との関係や信仰活動について記載しております。

第2条 黒髪山大智院の由緒について

黒髪山は、大同元年(806 年)に弘法大師空海様が直接開かれた肥前最古の真言道場と伝わっています。檀家各位には弘法大師様が開かれたお寺の檀家であるとの誇りをお持ち頂きたいと思います。

第3条 住職の呼称について

黒髪山の住職を「院家」(いんげ)と呼称します。これは江戸時代に京都嵯峨御所大覚寺との縁によって、大覚寺宮尊性親王ゆかりの大智院を黒髪山に合併された事による特別な事情です。この事により、黒髪山大智院は皇室親王ゆかりのお寺となり、多くの檀家信者の方々と共に長い歴史を数える事になりました。

第4条 菩提寺と檀家について

「檀家規約」第 3 条に定める施主及び家族の菩提寺は黒髪山となります。菩提寺には 2 つの意味があります。一つは施主及びその家族が菩提(さと)りを目指して信仰心を育て養う道場である事。もう一つはご先祖様の菩提(安らかなる事)を祈る精舎であるという事です。その基本となるのはお釈迦様・弘法大師様の教えです。人と人とは縁によって支え合う関係であり、ご先祖様のない人はいません。

第5条 菩提寺について

菩提寺は法事をするだけの場所ではありません。施主自身と大切な家族の幸せや安全を祈り、日々を充実させる中にこそ、大切にご先祖様に手を合わせる心が自然と湧き出すのです。そして、檀家の方々が集まり、皆でお祈りし、又お供養するのが菩提寺の諸行事です。皆の心が一つになり、大切な方々への祈りを昇華させ、又ご先祖様への報恩感謝をする。檀家も菩提寺を仲介とした大きな縁であるという事を理解いただき、それぞれ祈願行事・供養行事にご参加下さい。

第6条 霊明殿について

施主は菩提寺である黒髪山の霊明殿に設置されている御位牌壇を祭祀することが約束です。霊明殿には施主の祭祀するご先祖が記載登録された過去帳位牌を安置する御位牌壇が設置されています。施主はお家の仏壇と同様に大切に使用し、参拝し礼拝するべきものです。御位牌壇には納骨機能もありますからご先祖様を納骨している檀家はお墓としてお供養することができます。

第7条 信仰の基本姿勢について

仏法を聞く(聞法)、一緒に読経する(読誦)、経を写す(写経)は日常で行うことが出来る修行です。住職と一緒に読経し、法話を聞くことで仏教への理解を深め、仏教の教えを日常生活の中に活かすことで、自身と家族と周囲の人々と共に、心豊かに生活することを大切な目的とします。

第8条 まずは信仰のための身支度を調えましょう

檀家として信仰の主宰者となる施主は、入檀・名義変更の際に黒髪山から檀家袈裟・檀信徒勤行聖典をお授けしますが、家族の方々も檀家袈裟・檀信徒勤行聖典をお求めの上、ご自宅のお仏壇への読経やお寺詣りの

際などの際には袈裟を着し、勤行聖典を持って住職と一緒に読経して頂きたいと思います。

第9条 協力して信仰活動を行いましょ

施主と家族とは協力して信仰活動を行いましょ。お寺は親任せ・高齢者任せという考え方は誤った考え方です。祖父祖母・親が子供や孫の手を引いてお寺詣りする事は、信仰に加えて情操や道徳の上からも大切なことです。

- 1 施主が高齢であったり、病身であれば家族がこれを助ける等の工夫をお願いします。
- 2 盆暮れ彼岸の四度供養は佐世保在住の施主が担当し、護持費の拠出は家族が担当する等して、役割分担する工夫も必要と思います。
- 3 施主の体調不良等の事情によって120日以上にわたり信仰活動が困難で、復帰の見込みが少ない場合、家族は黒髪山に相談し、施主の承継等も含め対応する事を約束とします。

第10条 「祈願行事」大切な人たちの幸せと安全をお祈りしましょ

黒髪山では代表的な「祈願行事」として「節分星まつり」があります。皆様の1年間の幸福と安全をお祈り申し上げます。信仰もお供養も何よりもまず自身と大切な方々の日々の幸せと安全が第一です。

第11条 「供養行事」お供養を営みましょ

次の各項が主な「供養行事」です。ご先祖様・故人様への感謝と共に、ご家族をお見守り下さるようにお祈りいたします。自身もまたいつか後の人たちから手を合わせてもらえるように功德を積みたいものです。月のお供養については以下の1・2・3項のいずれかから、自家に適した方法を選択してお勤めする事を約束とします。

- 1 先祖供養の基本は「月命日」です。基本的に「月牌供養」の形でお勤めさせていただきます。
- 2 院家または黒髪山所属の僧侶が月命日にご自宅に伺って読経供養申し上げる、または施主が月命日に黒髪山に参拝し院家または黒髪山所属の僧侶が読経供養申し上げる形を「月まいり」と云います。
- 3 1年に一度の本当の命日にあたる日は「祥月命日」と申します。可能な限りお知らせします。「月まいり」・「月牌供養」をお勤めのご家庭は裁量に任せますが、「月牌供養」・「月まいり」をお勤めでない施主の方は、基本的に祥月命日のお供養をお約束とします。
- 4 真言宗では「年忌法事」のご本尊、十三仏様とのご縁を結びつつ、故人様もお悟りへの旅路を歩まれるという考えで「年忌法事」を執り行います。可能な限りお知らせします。施主の方は気がけてお勤め下さい。遠方の方は黒髪山に委託、またはオンライン法事でも対応可能です。

第12条 四度供養、諸行事にご参加・お申込み下さい

「四度供養」とは①春彼岸・②お盆・③秋彼岸・④納め大師総供養の4つの行事です。生きている人間同士のお盆暮れ彼岸のご挨拶にあたります。最も基本であり、季節の必須行事としてご理解ください。四度供養の際には、全てのお檀家のお塔婆をご本堂にお祀りして執り行います。なるべくご家族揃ってご本尊様とご先祖様におまいり下さり、ご一緒に読経し、ご法話に耳を傾けて下さい。参加率など布教活動の協議検討に必要なこととして出欠の有無を記録することがあります。

第13条 「月例行事」月に一度は菩提寺とのご縁を大切にしてほしいと思います

1200年前の旧暦3月21日に弘法大師様が高野山の奥之院にご入定された事から、毎月21日が真言宗の月例縁日となりました。これを「御影供」(みえく)と云いますが、黒髪山では「お大師様ご縁日」と称しています。毎月お護摩祈禱やご先祖様のお塔婆供養・ご法話があります。4月21日(旧暦3月21日)は祥月命日に

あたり正御影供「春弘法さん」と称します。8月21日はお盆のおまつり上げ「お施餓鬼」です。その他にも、「カルチャー教室」としてお写経会・ヨガ教室・ご詠歌など、色々な形での信仰活動・お付き合いの方法があります。

第14条 葬儀に際しての留意事項

- 1 黒髪山では、故人様の初七日から百ヶ日までの供養日を速夜、すなわち命日の前日から起算します。そのような慣習の地域も各地にあるのです。
- 2 近年は、葬儀後の三日まいりに初七日を併修することが多いです。また、お仕事や遠方等の事情により、二・七日以降の七日供養を勤め難い場合は、五・七日や忌明けのみを勤めるということもあり得るかも知れませんが、供養を省略するというのではなく、きちんと黒髪山の住職が速夜ごとにお寺で拝ませてもらいます。忌明け等の際に、それら分も含めてお布施を包むという礼節をもってください。

第15条 インターネットや書籍・伝聞について

信仰・供養・祈願に関して、インターネットや一般書籍に載っているお寺や供養等に関する情報や、知人の方々から伝聞された内容は、すべて黒髪山に適合する内容とは限りません。地域性・宗旨・伝統・慣例・習俗と様々です。黒髪山を菩提寺とする施主及び家族は、黒髪山におたずね・ご相談下さり、黒髪山の教化・指導を受けて下さい。

第16条 本心得の第三者開示を禁止します

黒髪山は本心得を施主に渡し、施主は自宅にて保管する。また、施主はこの心得を第三者に開示してはなりません。

第17条 本心得の改正について

本心得の改正は、黒髪山住職が黒髪山の責任役員会、及び総代会の了承をもってこれを執り行います。

第18条 定めなき事項について

本心得において定めなき事項については、法令・真言宗大覚寺派において定める所、及び黒髪山大智院において定める諸規則により、黒髪山の責任役員会、及び総代会にて協議決定するものとします。

附則 この心得は令和6年12月1日制定、令和7年4月1日から施行する

宗教法人黒髪山大智院 代表役員 草津栄良